

平成25年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	観光イベント事業			
予算科目	7款 1項 4目			
総合計画での位置付け	産業の振興～もりもり元気なしごとづくり～ 観光の振興			
所管課情報	担当課:	商工観光課	電話番号(内線):	572
記入者情報	所属長:	米湊 誠二	担当責任者:	大谷 基文
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	観光協会・市内観光関連事業全般			
根拠法令等	伊予市観光協会事業費補助金交付要綱・伊予市花まつり事業費補助金交付要綱・伊予市交流促進観光振興事業費補助金交付要綱・伊予市地域産業観光資源活用事業費補助金交付要綱			
事業の目的	・観光施設や地域資源を活用した各種イベントや情報発信を行い、観光産業としての重要性を認識しながら、観光資源の有効活用したイベントを行う。・オンリー1としてイベントの充実と市内外参加者のための広域的情報発信			
事業の内容	観光協会や市民、関係機関との連携を強化して、観光客のニーズにあったソフト面とハード面を一体化させた事業の展開を行う。			
改善策の具体的な取り組み(当初)	各イベントの日程及び内容、運営方法等について検討する。また、住吉祭りから伊予彩まつりへ名称が変更になったため、市内外への情報発信による周知に努める。			
改善策の具体的な取り組み				

事業費及び財源内訳					
項目		24年度決算	25年度予算	9月末の執行状況	25年度決算
事業費	直接事業費	26,149	26,595	18,000	26,595
	人件費	4,319	11,714	5,857	11,714
	合計	0	38,309	23,857	38,309
人件費内訳	人工数	0.54	1.44	0.72	1.44
	人件費単価	7,999	8,135	8,135	8,135
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	4,319	11,714	5,857	11,714
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	1,890	2,076	0	1,964
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	28,578	36,233	23,857	36,345

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	24年度実績	25年度予定	9月末の実績	25年度実績
イベントの開催	回	13	12		11
イベントの入り込み客数	人	68400	70000		60300

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	5年間の実績
		26,700	26,700	26,700	26,700	

成果指標				
成果指標	・いかに地域の自然や産物、人情等の豊富な資源にこだわって、地域活性化のためのイベントを開催したか。 ・住民参画によるイベント及び参加者数の増加及びリピート化を目指す。			
指標設定の考え方	年間イベントを伊予市内各地で実施することによって、リピーターが来るだけでなく、年間通じて来訪者のある伊予市内におけるオールシーズン化が図れる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	70000	70000	71000	0
実績	68400	60300	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	本年度から、観光イベント関係事業が、観光振興課に集約されたため、春から秋にかけてイベントが集中し、職員等の負担がかなり大きくなっていった。特にトライアスロン大会と夏祭り関係イベントが重なり、業務量が増大した。平成26年度からのトライアスロン大会の運営については、事務局の民営化による大会運営の見直しを図る。その他イベントについても、地元住民の参加による運営協力が多く得られるよう改善していかなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	H25には、商工観光課が誕生して、伊予・中山・双海地区でそれぞれ実施してきたイベントが一括管理運営となり大きな負担となっていた。特に、夏前後にイベントが集中するために、イベント中心の時期を過ぎていた。H26には、「伊予市トライアスロン大会inふたみ」が民営化による運営を目指すこととなり、イベントの業務が多少軽減されることとなったが、現イベントの運営や実施方法の見直しを視野に入れて検証する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会の抽出事業により、外部評価に諮ることとする。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・合併して10年になる。夏休みの花火大会は伊予彩まつりに一極集中して豪華にする方向に持って行ってほしい。・なかやま栗まつりの費用対効果はどれくらいあるのか。歌手を呼ぶという催しは完璧に地域間格差である。伊予彩まつりは花火など夜がメインであるが、その昼間にそういう催しをすれば、市内をうるうるし、買い物や食事もされるようになる。・観光関連の一元化は、観光に力を入れるということであり、良いことだと思う。厳しい状況ではあるが、従来のイベントを毎年新しい内容を考え、それを前面に打ち出して観光強化を積極的に進めていただきたい。・まちづくり政策として観光イベントをどう考えているか記載がないと評価はできない。また、実際の消費行動や物の売り買いといった波及効果がどう起こっているのか捕まえるのも市の行政である。来訪者へのアンケートによるモニタリング、主催者、出店者に対するアンケートによりイベントの効果を計る必要がある。そういうものが見える成果指標の設定をお願いしたい。・補助をしながら行政が運営しているのはびっくりする。主催は市民に委ね、行政がバックアップする構造でないとやれない。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>下記の点を見直しの上、継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>運営方法や実施方法等について検証し、イベントのあり方そのものを見直しを行うこと。</p>